H.29
(2017年)

一月（今月の掲示板）

真宗大谷派・願成寺

『あるがままに生きる』私達の生活が仏教です

その時々の思いで、欲深い心だったり・自分の意見を押し通そうと怒ったり・思い悩んだり・恐ろしい事を考えたりする私です。因縁（原因と条件）により、様々な私の姿が現れます。また、年を取ると疲れやすく・人間関係で苦労することも多く、自分の力で解決するのも難しく苦労します。思い通りにならない現実を受け取り、『人々は共に生かされ生きている同朋だ』と目覚めれば、苦悩しません。

私達は若さ・健康が人間本来の姿であり、赤ん坊が成長して、大人から老人になると思っています。が、仏教では『老人が一時的に子供や若者の状態でいる』との見方と、『老・病・死』が人間本来の姿だと考えます。親鸞聖人は85歳の時、『眼も見えず、何事も皆忘れ・人に、はっきり説きうる身でもなくなった（末灯鈔）』と老・病・死の現状を、そのまま引き受け『自然のままに生かされて生きる』ことができる念仏者でした。

（真宗大谷派・難波別院）。

主な参考資料

(1)中村了権（著）『現代と親鸞「あわれみ合う仏教生活（上）」』、月刊・南御堂新聞I2016年12月号

(2)沼田和隆（著）『もしもし相談の答』、月刊・南御堂新聞I2016年12月号（真宗大谷派・難波別院）。

(3)ひろさちや（著）『のんびり生きて気楽に死のう』、PHP研究所、p.68～78（2009年）。